

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270101761		
法人名	医療法人 社団 春秋会		
事業所名	二本松養生所		
所在地	長崎県長崎市戸町2丁目177番地28		
自己評価作成日	平成30年10月27日	評価結果確定日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/koreisha/kaigo-kouhvu/service-kouhvu/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の協力を得ながら企画や地域行事、1階のデイサービス合同の行事等を共有しながら、数多くの人の関わりを持って頂く場面の工夫や設定に心掛けている。
交換研修を独自で設けており、施設系と通所系の両方出来る職員教育にも力を入れている。
入居者様は運動と脳賦活に分けてメニューを作成し、1日の中での実施を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく運営の項目の中から、1点目は特に地域との交流が盛んであるが故に、地域のかさな情報が施設の耳に入り、地域とお互様の関係が構築されている。2点目に運営推進会議の際に、スタッフが参加者向けに認知症とは等のミニ講座を実施している。単調になりがちな会議にアクセントを加えることとなり、スタッフの育成にもつながっている。3点目は身体拘束廃止の取組みの一環として、名札の裏に「高齢者虐待の5区分」の文言カードを挟んでいる。日々振り返ることのできるよう意識付けの目的で実施している。4点目はスタッフの意見を拾い上げようとする管理者のアイデアが斬新で、スタッフが楽しく仕事ができるように工夫している。次にその人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントと日々の支援の項目の中から、1点目は家族の意向に基づき、身体効能が低下しないように運動や脳の活性化プログラムを実践している。2点目に介護計画書策定のプロセスにおいて、毎月のミーティングで各入居者の支援内容に対する詳細な検討を行い、次回のプランに落とし込んでいる。3点目に運営法人が医療法人であるため、協力医療機関の医師の訪問診療、看護師の訪問、心療内科医の訪問診察等充実した医療体制が整っている。入居者、家族、スタッフにとって安心できる環境と言える。4点目は排せつ支援に関して、世界共通の便の性状分類尺度を用いて、排便コントロールを実践している。また飲水の方にも着目して、イン・アウト共に療養日誌に量を記している。このように日々入居者の健康状態をわかりやすい記録用紙に残すことで、一元的に健康管理できている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに入る見やすい場所に理念を掲げており、パンフレットにも記載。 見学や入所時にも説明している。	「私は私らしく、あなたはあなたらしく、のんびり、ほのほの、おだやかに」というわかりやすい理念の文言は、歴代のスタッフが話し合いを重ねて作成した文言とのことであった。朝のミーティング時や毎月のスタッフミーティングの場面で振り返りや、共有する機会を設けている。理念の文言のうち、特に「あなたはあなたらしく」という、入居者の「個」を尊重する部分を中心に考えて日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の案内とお誘いを継続しており、掲示板にも案内を貼らせて頂いている。 地域の行事(市民大清掃や)にも積極的に参加している。事業所の定期新聞に自治会の行事掲載依頼があり、毎月実施をしている。	施設は開設してから歴史があるため、地域住民や地域の関係機関との付き合いは長い。特に自治会長や民生委員等の地域の役持ちの方々とは代が変わっても親交があるとのことであった。地域の活動への参加に関しては、スタッフが近隣の公園で開催されている自治会のレクリエーションに参加して、定期的に親交を図っている。また施設の活動内容に関しては、「ほかほか新聞」という広報誌を毎月発刊して、地域の回覧板を介して活動の紹介を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内・外の初任者研修受講者の受け入れや福祉系専門学校のボランティアの受け入れなどを実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者のご家族(毎回最低1家族)・地域住民にサービス状況やインシデントレポートを報告し、ご家族・地域住民からの意見、報告を伺っている。職員による約10分の発表をし、職員のスキルアップと地域住民への色々な開示を実施している。	2ヶ月に1回定期的に行っているが、特徴的な取り組みとして、スタッフがテーマを決めて、参加者の前でミニ講座を実施するという点を挙げることができる。認知症や感染症等様々な内容で開催しているとのことで、参加者へ高齢者介護の知識を伝えるとともに、講座を担当するスタッフにとっては、人に物事を伝える良い機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への書類提出時などを利用。連絡や質問を実施し、常に意見交換・質問ができる様に努めている。	保険者との連絡窓口は施設内での担当者を決めて、信頼関係を築くことも含めて、密に行うように心がけているとのことであった。また、問い合わせの内容によって、相談先が市の介護保険課なのか、地域包括支援センターなのか判断しながら実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない様に全職員が心掛けている。居室や玄関は日勤帯は開錠している。	介護知識や技術に対する正しい知識を職員に伝えるため、スタッフが施設に入職した際は、最大1ヶ月の基礎的な研修を小分けにして実施している。この研修に身体拘束や虐待、人権意識に関する項目も含まれているとのことであった。また、毎月のスタッフミーティングや身体拘束適正化委員会等で、定期的な意見交換と共有、そして周知徹底を図っている。身体拘束関連での特徴的な取り組みとして挙げられるのが、スタッフの名札の裏に「高齢者虐待の5区分」を保管している点である。スタッフが入居者支援の中でやや感情的になりそうな場合は、この文言を見て、冷静になるようこの想いで実践している。また、最後に管理者は言葉使い等スタッフ同士適切な指導ができるように、様々な企画(言葉使いを正しくしよう強化週間等)を立案して、気軽に注意し合えるような環境を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市や県主催の講義や勉強会に出席し、自己研磨に心掛けている。月1回の事業所管理職会議でも職員の様子を議題として毎回挙げている。入居者様への声掛け・対応時に注意は払うものの、心理的虐待の防止については継続して課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や県主催の講義や勉強会に出席し、自己研磨に心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約書・重要事項説明書を用いて説明を行っている。入所後はご家族の来所の際に、最近の状況報告を行い、話しやすい環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から質問があった場合はその場で回答と説明をし、今後の対応策まで提示している。その場での回答が無理な場合は一旦質問を預かり、後日にご家族で電話等の方法で回答を実施している。	管理者が一番に心掛けていることは、家族の面会時には、特に用事がなくても自ら声かけを行い、信頼関係を構築することである。管理者はこの下地抜きにして家族の本音は引き出すことができないと考えていて、家族との会話を重要視している。また、家族からの意見は表出しにくい一面もあるため、アンケートを取ったり、年に2回の家族会の機会を設けて、お互いに意見する機会を、1回でも多く持てるように工夫している。最後に、ヒアリングの中でいくつか家族からの意見の反映の例を聴くことができたが、施設として丁寧に対応していることと、家族と真摯に向き合っていることを確認することができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングの1週間前に課題を出して貰い、優先順位の高い順に解決をしている。全員提出の月を設けたり、職員全員が意見を言える環境作りに心掛けている。	スタッフが意見を出す機会の1つにミーティングがあるが、このミーティングの際、スタッフが受け身ではなく能動的に参加できるように、事前に意見を集約するようにしている。管理者はこのような取り組みを持続的に行うことで、意見を出すことのできるスタッフを育成したり、仕事をやらされているのではなく、やっているスタッフへの成長につながっている。但し、全てのスタッフが最初から自分の意見を明確に伝えきれるとは限らないため、管理者が代弁する等、ケースバイケースで対応するようにしている。このようなやり取りを毎月定期的を実施して、優先順位を定めた上でスタッフの意見を反映するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に資格取得の促しを行っている。労働時間に関しては、日勤帯で4人体制を導入し、入居者に目を向ける時間も充実しており、時間外労働が発生した場合は他の日		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修や勉強会の参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の定例会や、理事会、介護福祉士会時に同業者との交流を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議で出た要望は、職員に伝達し、問題解決をする為に、臨時のミーティングを開催している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に担当者会議を開催し、本人様とは別にご家族から要望を聞く時間を設け、職員に伝達し、結果をご家族へ連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族のライフビューの情報を担当者会議以外でも聞き取り、サービス提供に盛り込むように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何に興味があるか、何が出来るかを日頃の会話や表情から読み取り、その人その人の出来る事を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来所時に職員より日頃の状況報告を実施。現在の問題点も提示し、解決の糸口をご家族より貰っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	養生所に友人や近所の方が来られたり、1階のデイサービスの顔なじみの方の所に遊びに行ったり、来て頂いたりしている。	同一敷地内にある介護サービス事業所と、交流を図ることができるように、曜日を決めて実践している。この介護サービス事業所には、入居者の顔なじみの方も通っているため、関係継続の一環として行っているところである。その他の関係継続の取組みとして、入居者の馴染みの土地柄をコースに選定したドライブを企画していて、入居者は懐かしい風景にとても喜んでいとのことであった。	入居者一人一人の生活歴等、アセスメントできていると考えられるが、再度、入居者個々の生活歴をひも解いた上で、関係継続に関連する個別活動に落とし込んで、入居者支援の深化を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一応の席は決めているが、その場その場で談話出来る状況を作っている。職員が談話の架け橋となる事も心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や長期入院・亡くなられた方のご家族について訪問や近況状況を把握し、要望があった際に対応がいつでも出来る状況に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の担当者会議でライフビューを聞き取り、認知症の進行で困難な場合はご家族の要望を聞いたりしてその方の合った暮らし作りを実施している。入所後に身体レベルが下がらない様に運動と脳賦活に分けて毎日の取り組みを実施。	入居前に自宅まで赴くこともあり、入居者の生活や大事にしていることを聞き取っている。スタッフは担当制とし、入居者一人一人をよく見ている。「いつまでも元気でいたい。」との意向のもと、トイレまで遠回りの距離を歩く運動や、生活スキルを高める目的で、脳の活性化プログラムを行っている。	介護度も高く、なかなか意向の把握が困難となっているようですが、入居者のニーズの把握ができるようなコミュニケーションの取り方の工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当者会議時にキーパーソン以外のご家族よりライフビューを伺い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕方(検温は朝・昼・夕)に身体観察とバイタルチェックを行い療養日誌に記載している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来所時や家族会時にケアプランの説明を実施し、要望を聞き取り、介護計画作成時に反映している。1回/月の養生所ミーティングで3名の見直しも実施。モニタリングも1回/3か月実施している。	毎月のミーティングで各入居者の支援に対する細かい検討を行い、次回更新のケアプランへ落とし込んでいる。3か月毎の見直しを基本とし、状態に変化が見られた際にはその都度見直しをしている。見直しの際には入居者・家族の意向を確認し、スタッフ・医師・看護師・セラピスト等と連携を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	療養日誌に個別記録は毎日実施。1回/月のミーティングで気づきや工夫を取り上げ実施している。職員のスキルに差がある場合は個別で指導を行い、スキルの誤差を埋めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況よってのニーズに対して、法人内の医療関係に依頼し、機能低下予防を務めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の好物や日用品を近隣のスーパーや量販店で買い物に出向いたり、目の前の公園へ散歩に出掛け、楽しめる環境作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の契約時に現在継続している医療機関を伺い、更に要望も聞き、相談した上で決定している。必要な医療機関が出てきた場合はご家族へ相談をし、適切な医療の支援を実施。	母体が医療法人にて、連携体制などを説明したうえで、かかりつけ医の継続は家族判断に委ねている。2週間に1度の往診と、週に1度の訪問看護の訪問にて、医療連携が図れており、緊急時の対応も安心できるものとなっている。月に2回、認知症等メンタル面に特化した心療内科の医師の往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が1回/週に来所しており、状況報告は随時行っている。突発的な際でも24時間電話対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを作成し、情報交換を実施している。入院先に出向いた際には、看護師や連携室へ行き、退院のメドや現状把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の担当者会議の際に、重度化した場合の指針説明を行っている。同意を得た上で終末期の対応や看取りの指針に基づき対応可能に努めている。	重度化した場合の指針を作成し、家族に説明を行い同意を得ている。現在まで施設の看取り経験はなく、勉強会への参加や夜勤帯を安全管理者と2名体制をとるなど、その日に備えた活動を行っている。食事が摂れなくなった時点で、家族や医師・施設スタッフを交えて今後の方向性についての検討を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所単位や法人単位で勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回避難訓練を実施(昼間と夜間を交互に実施)し、災害時の対応を身につけている。地域の方の参加も毎回実施している。	消防計画・防災計画も作成されており、年に2回の火災訓練と防災訓練を行っている。地域の自治会との結びつきが強く、協力体制も構築できている。斜面地で道幅が狭く、緊急時に消防車が入りにくい事等も勘案し、有事に備えている。備蓄品も食料等保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り声掛けをする様に指導しているが、その声掛けが正しいかが迷う様子。職員同士の注意がなかなか実施されていない状況。	法人全体で行っている、個人の尊厳やプライバシー確保の研修に参加している。施設でも虐待防止委員会を設置し、虐待5区分カードをスタッフ個々人が常に携帯している。スピーチロックに関しても、運営推進会議に於いて検討している。排泄の誘導時は、耳元でささやく等一人一人に合わせた声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動する前に確認の声掛けを実施している。 日常会話の中で本人様の思いを少しずつ引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がしたい時、行きたい時の要望に応える様にしているが、時折『もうちょっと待っててくださいね』の声掛けがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの際にその人らしい服装を確認した上で準備している。意思疎通が難しい場合は同じ服にならない様に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの所でお盆拭きをして頂いている。日頃の会話の中で好きな食べ物を伺い、手作りの際に作って提供している。	食事は外部委託し、その分入居者と関わる時間を密にしている。盛り付けや食事形態に関しては、スタッフが対応している。月に2回は施設手作りの食事の日がある。介護度が高い入居者も、自身で食事が摂れるように支援している。誕生日にはケーキで祝い、おせち等の行事食も楽しみのひとつとなっている。食事後の入居者のお盆拭きもステップアップし、お盆洗いができればと、検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託をしており、栄養バランスが取れた食事を提供している。現在は隔週で手作りを実施。水分量チェック表を活用し、飲水量を記入して、療養日誌に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。 1週間に1回協力機関の歯科が往診に来るので必要時に相談をし、改善に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄前のトイレ誘導実施して失敗の減少に務めている。	世界共通の便の性状分類尺度を用いて、共通の尺度にて、入居者の排便コントロールを行っている。排尿に関しても排泄チェック表を参考にして誘導を行っている。アウトだけでなく飲水量も記入し、水分量のインとアウトを療養日誌表へ記録している。熱中症対策等に役立てている。また、トイレまでの歩行を利用し、運動の一環としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を日頃から把握し、便形状スケールを用いて職員間での便形状を統一し、下剤調整を行っている。乳製品の提供や個別・集団での運動とリハビリを実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	下剤調整や健康状態を考慮しご本人様の希望に沿って実施。入浴時間の拡大を実施しており、AM、PMの入浴の選択も可能となっている。	基本的には同性介護を行っている。入浴の頻度に関しては、入居者や家族にアンケートを取っている。体調に合わせて清拭や足浴・シャワー浴への切り替えなど臨機応変に対応している。浴室は明るく広い間取りとなっている。マイブラシが9本それぞれ置いてあり、衛生面での配慮も伺える。ゆず湯や菖蒲湯等の季節に合った行事湯の提供も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のしぐさや表情から倦怠感があれば声掛けをし、居室での臥床促しを実施している。 昼夜逆転しない様に臥床時間は短めで設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜間帯での配薬の際に効能書きを確認。目的や副作用を把握しながらの実施を心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割分担を日々実施している。談話の中から何がしたいか何が楽しいかを分析し、気分転換の声掛けを実施している。突発的に『ドライブに行きたか』や不穏時には急遽ドライブの対応を実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気温や天候に左右されるが、目の前の公園に散歩に出掛けている。ご家族の協力の元、外食や宿泊も実施している。	年に2回、食事会や紅葉狩り等の大きな外出を計画している。他は天気次第で花見や、眼下の港へ外国船の入港を見に行ったり等、ドライブへ出かけている。日課のように近隣の公園へ散歩に出掛けており、できる限り外の空気を感じてもらえるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを廃止し、法人が立て替えをしている。毎月の請求書と一緒に領収書も添えて確認をして頂いている。ご本人様希望により、嗜好品購入もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の面会が多く電話や手紙の支援は現在未実施。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはTVの音や洗濯機や包丁を使用をする際の生活音があふれている。西日が強い際にはカーテンなどで対応している。あとフロアにはカレンダーや壁画があり、季節感が分かる様になっている。	清掃はスタッフが毎日行い、空調管理にも留意している。共用フロアは広く明るく、キッチンにも面しており、食事の美味しい匂いや準備する音が聞こえてくる。椅子に関しても入居者が立座しやすいように、椅子の足にテニスボールを被せている。壁面には入居者の作品を飾り、季節に応じたフロア演出を行っている。心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファ、玄関前に長椅子を設置し、独りになれる空間作りを実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品としてベッドとクローゼットのみなので、今まで使用していたタンスや椅子、TVやご家族やご本人の写真等の貼りだしをしている。	各居室には、家族が面会時にゆっくりできるようにと、色とりどりの大きめのソファが据えられており、自宅の寝室に居るようである。馴染みの家具や思い出の写真を飾るなど、自宅と変わらない居室の提供を行っている。ドアも防火に備え厚くしているが、開け閉めは軽い。抜き窓の飾りガラスにて、室内が明るくなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室に表札等を設けており、自身でわかる様にしている。手すりを設置しているので、加介助のならない様に手すり使用の声掛けを実施している。		